

“参詣道を歩く”、高野山観光の新たな楽しみ方・過ごし方を提案します

拠点として①九度山駅に“おにぎりスタンド” ②高野下駅に“駅舎ホテル”を整備

～2019年11月初頭の開業を目指し、準備を進めています～

南海電気鉄道株式会社(社長：遠北 光彦、以下「南海電鉄」)では、中期経営計画「共創136計画」において「インバウンド旅客をはじめとする交流人口の拡大」を掲げ、「インバウンド需要のさらなる獲得」や「訪れるべき場所の創出」に向けた各種取組みを推進しています。

この度、高野山麓エリアにある高野山への参詣道やトレッキングルートを歩いてもらうといった、高野山観光の新たな楽しみ方・過ごし方を提案することで、高野山と同エリアへの新たなお客さまの増加と回遊性向上に取り組めます。

具体的には、株式会社NOTE(代表取締役：藤原 岳史、以下「NOTE」)との協働により、九度山駅と高野下駅の駅舎をリノベーションし、九度山駅には“かまど”で炊いたおにぎりなどを提供する「おにぎりスタンド」を、高野下駅には全国的にも珍しく“関西初”となる「駅舎ホテル」を、新たなお客さまの拠点として整備します。また、地元住民の方などと協働して、両駅周辺での食事・宿泊・情報発信などの拠点機能の充実に取り組む、参詣道歩きの出発点としての賑わいの復活を目指します。

なお、両駅とも既に改修に着工しており、11月初頭の開業を目指して準備を進めています。詳細は、別紙のとおりです。



九度山駅「おにぎりスタンド」
整備イメージ(改札内)



高野下駅「駅舎ホテル」
整備イメージ(客室・2ベッドルーム)

1. 高野山への参詣道やトレッキングルートについて

(1) 概要

九度山は、かつて高野山への表参道として利用され、世界遺産にも登録されている参詣道「町石道」の起点となる場所であり、高野下駅周辺の推出地域は、かつて高野参りの宿場町として栄え、参詣道の「槇尾道」がある場所です。また、それぞれのエリアは竜王溪トレッキングルートで結ばれており、今回九度山駅と高野下駅に整備する施設を拠点として、参詣道やトレッキングルートを歩いてもらうといった高野山の旅を提案し、高野山麓エリアへの来訪者の増加に取り組んでいきます。

(2) ターゲット

- ・ 宗教的聖地に造詣の深い欧米豪のインバウンド観光客

参詣道・巡礼に理解・興味のある欧米豪のお客さまに、高野山麓のまちから参詣道を歩いて高野山を目指すという旅の新たな楽しみをご提供します。また、日本の食文化の代表の一つである「おにぎり」にも触れていただきたいと考えています。

- ・ トレッキングに興味のある国内観光客

ライトな山歩きが好きな方から、本格的なトレッキングにチャレンジしたい方まで、幅広い方々に、高野山までの道程（参詣道）を楽しんでいただきたいと考えています。

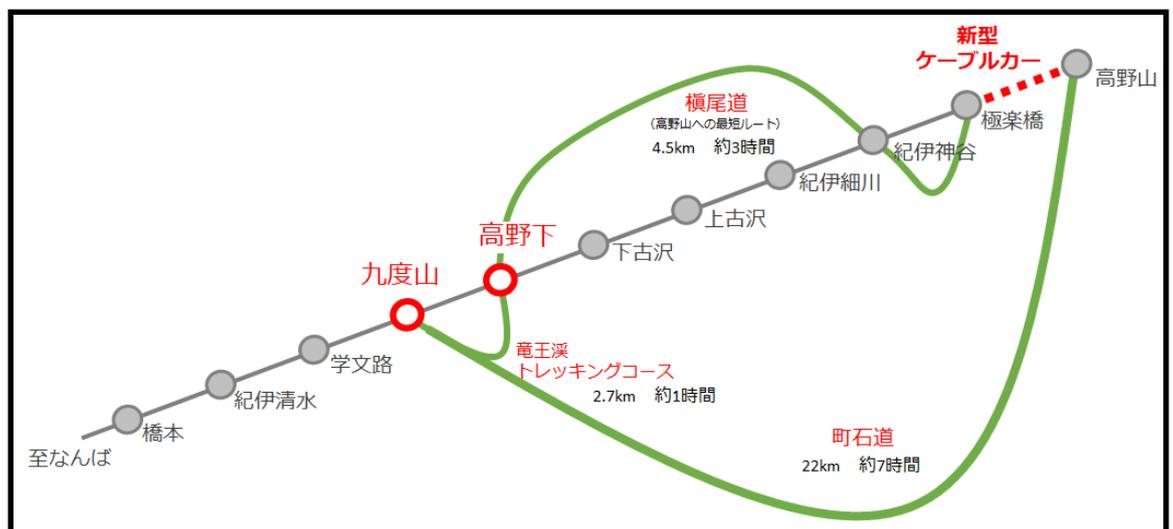
(3) 参詣道・トレッキングルート

◇ 町石道…九度山の慈尊院から高野山の壇上伽藍・根本大塔まで通じる高野山への参詣道を町石道（約22km）といいます。2004年7月に『紀伊山地の霊場と参詣道』の一部として、世界文化遺産に登録されました。

◇ 槇尾道…高野下駅が高野山に最も近いターミナル駅として開業した頃、駅周辺の推出地域から高野山への参詣道として利用されていたのが槇尾道（高野町神谷まで約4.5km）です。当時は多くの参拝者がこの参詣道を利用しており、茶屋や宿場が数多く点在していました。

◇ 竜王溪トレッキングルート

…九度山駅と高野下駅の間に、善女竜王を祀っていることから竜王溪と呼ばれる溪谷があります。昔、高野の木材を運ぶためのトロッコ道として使われていた九度山のまちなかから高野下駅に通じる溪谷沿いの道を、九度山町が整備しています。



2. 九度山駅の活用について

(1) 概要

駅とその周辺を一体的にリノベーションし「おにぎりスタンド」を整備します。

(2) 名称

くど ※「おくどさん(京ことばで「かまど」)」と「九度山」を組み合わせ命名

(3) 特徴

- ・ホームから見える店内に“かまど”を3台設置し、かまどで炊いたおにぎりなどを提供します。
- ・駅舎横の倉庫をリノベーションし、かつて当社で活躍した電車の部品や、難波駅に設置されていた路線図を内装として活用します。
- ・列車と九度山の景色、両眺望が特徴のデッキをホームに隣接して整備します。



九度山駅改修イメージ(改札外)



かまど設置イメージ

(4) 開業時期

2019年11月初頭(予定)

(5) 運営委託先

株式会社海南社

(6) 九度山駅について

所在地 和歌山県伊都郡九度山町大字九度山123番地2

駅情報 大正13年(1924)12月に開業。駅から徒歩圏内に、真田幸村父子が隠れ住んでいた屋敷跡に建てられた「真田庵」や弘法大師・空海の高野山開創に際して山麓の寺務所として建立された「慈尊院」などがあります。また、「こうや花鉄道プロジェクト」の一環として、ホームに「九度山真田花壇」があり、「真田幸村と十勇士」のイラストが描かれています。

3. 高野下駅舎の活用について

(1) 概要

大正建築の近代化産業遺産である駅舎をリノベーションし、全国的にも珍しく“関西初”となる「駅舎ホテル」を歴史ある参詣道で高野山頂を目指すトレッキング拠点として整備します。

(2) 名称

the EXPerience station inn Koya-shita(仮称)

(3) 特徴

- ・のどかな自然に囲まれた客室から、不動谷川やホーム、列車を眺めることが可能です。
- ・かつて当社で活躍した電車の部品を内装として活用します。

(4) 開業時期

2019年11月初頭(予定)

(5) 運営委託先

株式会社キリンジ

(6) 高野下駅について

所在地 和歌山県伊都郡九度山町大字推出8番地1

開業日 大正14年(1925)7月

駅情報 「こうや花鉄道プロジェクト」の一環として、駅構内の2カ所に「花屏風」(花壇)やホームに「南海思い出ミュージアム」を設置しています。



昭和10年頃の高野下駅

【参考①】 運営事業者について

・株式会社海南社

本社所在地：和歌山県海南市鳥居337番地1

設立：2018年2月1日

代表者：半田 雅義

事業内容：飲食業の経営など

・株式会社キリンジ

本社所在地：大阪市天王寺区東高津町3-5

設立：2017年4月13日

代表者：天川 洋介

事業内容：宿泊事業など

【参考②】 NOTEとの関係について

南海電鉄とNOTEは、2018年9月に南海電鉄が所有する駅舎、周辺の歴史的資源、特産物などを活かした観光振興を積極的に推進することなどを通じて、高野山麓エリアの地域活性化を推進していくことを目的に包括連携協定を締結しています。今回の駅舎活用は、同協定に基づき実施する取組みです。